

生後9ヶ月齢以降から出荷まで 圧ぺん粃米を多給する肉用牛肥育技術

目的と特徴

- ・黒毛和牛肥育牛での飼料用米の給与技術です。
- ・肥育農家の導入月齢に相当する生後9ヶ月から出荷までの全期間において、配合飼料の40%を圧ぺん粃米を主とする飼料（圧ぺん粃米33%、大豆粕7%）で代替することができます。
- ・配合飼料のみの場合に比べ、飼料にかかるコスト削減を図ることができます。



肥育牛に必要な配合飼料の一部を



圧ぺん粃米で置き換えると



肥育牛の飼料として飼料用米が利用できます

市販配合飼料
(乾物中CP 15%、TDN 80%)
10kg

配合飼料
4kg
減らしても

市販配合飼料 **6kg**
圧ぺん粃米 **3.3kg**
大豆粕 **0.7kg**

代替可能

飼料価格が

配合飼料 60円/kg
圧ぺん粃米 45円/kg
大豆粕 90円/kg
として

1頭あたり10kg/日
給与すると?

配合飼料のみの場合
600円

圧ぺん粃米+大豆粕で
40%置き換えた場合
572円

**1日約5%の
コスト削減**

成果

- ・生後9ヶ月齢以降から出荷まで圧ぺん粃米を主とした飼料で置き換えることができます。
- ・圧ぺん粃米のみによる置き換えでは不足するタンパク質を大豆粕で補うことで、配合飼料の代替率を40%まで高めることができます。
- ・圧ぺん粃米を給与することで肉色が淡くなります。

給与方法

日本飼養標準によるTDN充足率が100%、CP充足率が120%前後となるように設計した配合飼料の原物当たり40%を圧ぺん粳米を主とする飼料で代替します。不足するTDN及び粗タンパクを充足させるため大豆粕を併せて使用します。

肉質への影響

表 試験牛の格付成績

項目	単位	試験区		対照区	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
頭数		7		7	
出荷月齢		26.9	1.2	26.8	1.5
枝肉重量		437.6	22.3	453.8	32.8
胸最長筋面積	cm ²	55.1	5.0	59.1	7.4
バラ厚	cm	7.8	0.7	8.3	0.7
皮下脂肪厚	cm	3.2	0.6	3.3	0.3
歩留基準値		73.5	0.7	74.1	1.0
BMS No.		5.1	1.3	6.3	2.1
BCS No.		3.1 ^a	0.4	3.7 ^b	0.5
BFS No.		3		3	

値は平均値±標準偏差。ab間に有意差 (p<0.05)

BCS No. (肉色基準値) は低くなり、色が淡くなりました。

枝肉重量や脂肪交雑 (BMS No.) に差は見られませんでした。



本試験での圧ぺん粳米給与牛肉
枝肉重量 428.0kg BMS no.7

配合飼料のみの場合と比べて遜色無く使用できま

対象作物、普及対象

- ・黒毛和種肥育牛 全国

対象農家 全農家

- ・肥育牛生産を経営に取り入れている経営

必要な道具

- ・飼料用米、不足するタンパク質を補う補助飼料、飼料設計計算が可能なプログラム。

関連HP

- <http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/223251.pdf>
(宮城県普及に移す技術 第88号 参考資料 19)
- <http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/200701.pdf>
(宮城県普及に移す技術 第87号 参考資料 22)

その他

- ・本試験で用いた圧ぺん粳米はフクダ物産株式会社(仙台市)製造の製品です。
- ・他の加工方法又は成分の異なる飼料用米を用いる場合には別途、飼料計算が必要です。
- ・飼料コストの計算に用いた飼料価格は設定価格であり、様々な条件で変動します。状況に応じ、適宜試算する必要があります。